

令和元年度（2019年度）「小学生のための読書のススメ teacher 編」研修報告

- 1 期 日 令和元年（2019年） 11月14日（木）
- 2 時 間 午後3時40分～午後4時40分
- 3 場 所 菊池市立隈府小学校 パソコン室
- 4 参加者 隈府小学校の先生方（34名）社会教育課（3名）
- 5 講 師 情報支援課 指導主事 小畑祐介
- 6 概 要

- (1) 開会
- (2) 挨拶（社会教育課より）
- (3) 講 話「中学生のための読書のススメ teacher 編」

子供の読書習慣の形成に向けて、発達段階に応じた効果的な取組を推進することや、友人同士で本を薦め合うなど読書への関心を高めることを目的に、小学校教諭向けの学校における読書の推進をテーマとした講話を行いました。



今回の講話では、「学校図書館（学校）が担う読書教育」「読書のチカラ～これからの社会が求めていること～」「読書でチカラをつけるには？～読書教育への提案～」という3つのお話をしながら、読書教育について考えてみました。

まず、「学校図書館（学校）が担う読書教育」では、学校図書館をめぐる法律や規則から学校図書館の意義・目的を確認し、授業の中での活用を実践していくために、学習指導要領改訂の話題を用い、学校図書館（学校）が読書教育を行うことの必要性などについて考えていただきました。

続いて「読書のチカラ～これからの社会が求めていること～」では、現代社会が子どもたちに求めている力を、最近刊行された書籍の中から、共通して示されていること（認知能力、コミュニケーション能力の重要性、自分軸の大切さ等）を例に取り上げました。そして、次に、読書をするるとどのような力がつくのかを考え、これらが現代社会に求められている力と一致するということを明らかにしていきました。特に、AIが発達する世の中で、読解力のない子供たちが増えているという現状をお話した時には、実感をもって感じていらっしゃるのか、納得した様子でお話を聞かれている方が多く感じられました。



「読書でチカラをつけるには？～読書教育への提案～」では、読書によって力をつけるための前提、そして、どのような取組が有効と考えるかを提案しました。

まず、前提として読書は娯楽であり、楽しむことが大切だということをお話し、どんな子が楽しくなくなってしまうのかを確認しました。そして、低・中・高学年の段階でどのような取り組みができるのかをお話しました。

具体的には、「読みきかせ」「図書館探検」「アニメーション」「ビブリオバトル」など、子どもたちが楽しみながら読書に親しむことを中心にご紹介した。そして、読書はインプットというイメージがあるが、これからはアウトプットしていくことも力の定着につながるのではないかという提案を行いました。また、読書を苦手としている子どもたちへどのようにアプローチをかけていけばよいかについてもお話しました。

まとめとして、指導者に「読書をしなくてもいい雰囲気」があるのかもしれないということについて提起し、指導者の側から、もっと読書に親しみをもち、読む姿勢を見せることが生徒の不読率解消につながるのではないかという提案を行いました。

(4) 質疑

この時間に質問は出ませんでした。事前
にいただいた質問について講話の中で回答
したものを紹介します。

Q 30人くらい集めると「見えない」とも
めてしまうが、どういう体形にして読むのが
良いか。



A 場所づくりの例

- 机といすを教室の後ろに寄せ、子どもは床に座る。この時、語り手は椅子に座る。
- 机だけを後ろによせ、椅子を扇形に並べて座る。語り手は立つ。語り手が座る場合は、子どもたち全員の顔が見えるように気をつける。
- 時間がないときは、いつもの教室の状態のまま、机といすを真ん中に少しよせる。語り手は立つ。

教室の角に読み手が立つと自動的に扇形になって GOOD！

Q 文章を読むのが苦手な子で、全く読書に興味がない図書室に足が向かない
子へどのようにアプローチしたらよいのか知りたいです。

A 読書を楽しむのには最低3つの条件があると考えています。それは「面白い
本、時間、場」です。それらのどの部分に課題があるのかを把握して、アプ
ローチしていくのがよいと考えます。

目で文字を負うことが苦手な子には「読み聞かせ」が有効です。話の続きが
気になる物語のよみきかせなどを通して、図書室に足が向くようにしてほし
いです。また、読みの力が足りないと感じる場合には、保護者との連携を密
にすることが大切だと考えます。

(5) 謝辞 (隈府小学校より)

7 感想

小学校の校内研修に講師として参加させていただきました。「読書のススメ」というタイトルで、読書教育を進めていく中で大切なことを自分なりに考えお伝えしてきました。具体的な方法もお伝えしましたが、どちらかというと概念的なことが多くなったような気がします。ですが、これからの時代に読書がつける力は大変有用なものだと考えます。そのことを小学校段階から理解したうえで力をつける取り組みを行うのに行わないのでは、大きく違うと考えます。たくさん子どもたちが、読書を楽しんで行い、力をつけ社会に巣立って行ってほしいです。